

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保修

事業名	地域高規格道路 一般国道4号古河小山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局	
起終点	自：茨城県古河市柳橋 至：茨城県結城市小田林	延長	15.9km			
事業概要	国道4号は、日本橋を起点とし、宇都宮、郡山、福島、仙台、盛岡を経て青森市に至る延長約850kmの主要幹線道路である。小山市・古河市周辺の国道4号は、沿道市街地の発達とともに交通量の増加等により、慢性的な渋滞が生じている。古河小山バイパスは、国道4号の小山市、古河市の交通混雑緩和と地域活性化等を目的とした延長15.9kmのバイパス事業である。					
H48年度事業化	H45年度都市計画決定	H56年度用地着手	H60年度工事着手			
全体事業費	516億円	事業進捗率	83%	供用済延長	15.9km	
計画交通量	57,900～69,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.7 既供用区間を除く区間) 3.3 (残事業) 31.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 136/917億円 事業費：70/850億円 維持管理費：67/67億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 4,347/4,347億円 走行時間短縮便益：3,387/3,387億円 走行経費減少便益：734/734億円 交通事故減少便益：227/227億円	基準年	平成19年	
感度分析の結果	【事業全体】 交通量： B/C=4.3～5.2(交通量±10%) 事業費： B/C=4.3～5.2(事業費±10%) 事業期間： B/C=4.6～4.9(事業期間±20%) 割引率： B/C=3.5～6.6(割引率±1%)					
感度分析の結果	【残事業】 交通量： B/C=28.7～35.1(交通量±10%) 事業費： B/C=30.3～33.6(事業費±10%) 事業期間： B/C=31.6～32.2(事業期間±20%) 割引率： B/C=29.3～34.7(割引率±1%)					
事業の効果等	当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する、他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	第二4号国道茨城県期成同盟会が全線6車線化を要望（要望活動1回/年） 第二4号国道古河・宇都宮間建設促進期成同盟会が整備促進及び立体化整備の推進を要望（要望活動1回/年）					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	新4号国道栃木県内区間が全線4車線開通するとともに、北関東自動車道（都賀JCT～宇都宮上三川IC）が供用され、沿道に工業団地等が立地し、当該道路における交通需要が増大している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成16年度までに、全線暫定4車線供用済み。用地取得100%済み。また、周辺道路整備等による交通需要の増大に対応し、6車線化完成供用を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	現在、交通需要の多い石橋宇都宮BPから順次、立体化及び6車線化を進めており、当初の予定通り進められている。新4号国道全体の整備状況と整合を取りつつ、平成20年代半ばまでに6車線化を進める。					
施設の構造や工法の変更等	コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、併せて整備効果の早期実現を図る。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。